

令和5年度 学校評価結果について

福井小学校

Ⅰ はじめに

本年度、学校教育目標『夢や目標をもち、自ら考え、進んで実践するたくましい子どもを育てる』、めざす子ども像、めざす教職員像、めざす学校像の各めあての実現に取り組んでいる。これは、昨年度の学校評価結果を元に作成し、R5.4.3の職員会において示した（【資料1】）。教職員はもちろん、児童には全校朝会等で、保護者、学校関係者には学校日より『シン山びこ』等を通して公表し、学校教育推進のベクトルをそろえて教育活動に取り組んできた。また、本校は、明治7年7月10日から数え、令和6（2024）年で創立150周年を迎える。本年度は、149周年目であった。この節目を迎えるタイミングを、児童成長の機会として教育内容創造に努めている。

さて、11年ぶりの福井小学校。新学期から、児童数の減少（110人から54人）に伴う集団の小型化（PTAも含めて）からか、コロナ禍3年間の声も出せない、肩も寄せ合えない、集えない学校生活や行事等の中止・小規模化からなのか、複合的な理由からなのか、学校が保護者・地域から孤立しているように感じた。児童からは「バカな方が得なんぞ」と冷めた言葉が出たり、興味津々のはずの新学年での学習や生活に前向きに取り組めなかったり、学びにくさや暮らしにくさを感じた。

これらに真正面から立ち向かうのは、まず我々教職員であると自覚をもち、その方策を『学習規律の確立』とした。保護者の児童成長への期待に応えるのは、教師個人の問題でなく学校の問題とし、教職員の、長所・短所を個々の特性としてしまうのではなく、伸ばし合い支え合うチームになるよう取り組んできた。

学校評価では、この目標やめあてに向かい、学習規律の確立を柱とした実践について、児童、保護者、教職員、学校関係者にアンケート調査した。学校関係者には、福井中学校と協議し、本年度より調査することとした。アンケートは、回答者のものごとのとらえ方やその時の気分等で結果が左右されるが、だいたいの傾向をつかむことはできる。そこで、この評価結果を分析し、今後の学校経営や学級経営に役立てることとする。

（1）アンケート回答数

児童（53） 保護者（27） 教職員（15） 学校運営協議委員（9）

今回、児童、保護者、教職員の調査には web を活用した。保護者回答が約70%に留まったのは、周知不足、手法への不慣れだけでなく、調査時点での関心度合いでもあるのかと推測している。

（2）アンケートの分析方法

各質問項目に対し、「そう思う」「やや思う」を**肯定的意見**、「あまり思わない」「思わない」を**否定的意見**としてとらえ、令和4年度の結果との比較表にまとめて分析した。この時、設問変更や初めて実施したものは本年度だけの結果からとした。

分析や考察にあたっては、令和3年度評議委員の意見にも、「本年度学校教育目標の達成度の視点から各評価の考察をしては」とあり、それぞれのめざす姿（参照【資料1】）から行った。

2 アンケート結果

アンケートの結果は、それぞれ「児童評価【資料2】」「保護者学校評価【資料3】」「保護者自己評価【資料4】」「教職員評価【資料5】」「学校関係者評価【資料6】」にまとめた。別紙にして紹介する。分析・考察の参考にしていただきたい。

3 分析

*1 []は、【資料〇】でのNo.

(1) めざす子ども像から

① よく考え、進んで行動する子

<【資料2】児童評価から>

- ・[4]きまりを守る，[9]人の話をよく聞く，[10]タブレットを使うと授業がわかりやすくなる，[12]学びを生活に役立てる，が減少した。
- ・[19]私は活躍したは7割と現状維持。個の丁寧な評価と指導，活躍の場の多様化が必要である。
- ・[11]自分の考えを伝える，[13]考えや感想を文章に書く，[15]不明や不思議は自分で調べる，[16]家庭で自主勉強する，[17]忘れ物をしない，が向上した。児童が自分でやろうとする主体性の育成に重点を置いた日々の授業の成果である。また[22]危機の回避，の向上も，不断の安全教育の成果である。そして，[23]ノーゲームデーの実施も10%向上し，6割を超えている。

<【資料4】保護者自己評価から>

- ・[6]忘れ物がないように気をつけている，[8]ノーゲームデーの実施，[10]携帯 ICT 機器使用の時のルール作りやマナー遵守，[11]家庭でのインターネット使用，[12]インターネット使用時のフィルタリング活用，が減少した。
- ・[13]児童の持ち物や行動への目配りは，肯定的が8割で，現状維持であった。
- ・[7]テレビやゲームの時間を決めている，[9]子どもに携帯 ICT 機器を持たせているが，増加。
- ・[6]は，児童自身の生活力向上が反映されている。

② 元気でねばり強くがんばる子

<【資料2】児童評価から>

- ・[2]できるだけ歩いて通学する，[25]好き嫌いせず給食を食べる，は微減。これらは児童自身で改善できない面があるとともに，全員に同じ価値を求めない社会の変化も反映している
- ・[8]勉強や運動の力は成長している，[14]宿題に毎日丁寧に取り組むが，向上。特に[14]は学童での励ましも後押しになっているのか16%向上。共に9割を超えている。

<【資料4】保護者自己評価から>

- ・[1]早寝早起き洗顔等の励行，[2]朝食を摂らせる，は微減であるが，「思わない」は0%である。規則正しい生活が健やかな成長の土台となっている。

③ みんなで仲よく助け合う子

<【資料2】児童評価から>

- ・[6]いじめや悪口，仲間外しなく仲良くしている，[7]何でも相談できる先生や友だちがいる，[21]学校行事は楽しい，[24]交通ルールを守って安全に登下校する，が減少している。これらは，[1]学校生活は楽しい，を否定的にとらえる約2割に表れている。

<【資料4】保護者自己評価から>

- ・[4]家事(仕事)を任せている，は微減である。
- ・[15]防災に関する話を家族でする，[16]「いじめをしてはいけない」と教えている，[18]交通当番やPTA活動に協力している，が向上している。特に[16]は，肯定的100%である。

④ 感謝を忘れず豊かな心をもつ子

<【資料2】児童評価から>

- ・[5]掃除をきちんとする, [26]自分の住む町が好き, は9割以上で現状維持である。
- ・[3]挨拶している, [18]読書をする, [20]校外での体験や GT からの学びは有効である, が向上している。ただ, [18]は約7割が肯定的で, 読書推奨の余地は大きい。

<【資料4】保護者自己評価から>

- ・[3]挨拶の習慣づけをする, は微減であるが肯定的が9割を超える。今後も, 挨拶は社会生活で自分を活かすうえで必須であることを教えていく。
- ・[5]読書や学習の習慣づけをする, は約6割が肯定的で現状維持である。児童の読書に成長の余地があることとつながる。
- ・[14]家族の会話がある, [17]子どもの前で悪口や乱暴な言葉は慎む, が向上している。特に家族の会話が10%向上し, 9割を超えている。児童の生活への安心感になっていると確信する。

(2) めざす教職員像から <【資料5】教職員評価から>

① いつも子どものために, 子どものよさを伸ばせる教職員

- ・[19]児童の読書が進むように取り組む, は低下して。金曜日の朝の一斉読書の時間を体力づくりに回したことの影響。
- ・[9]児童が活躍できるよう配慮する, [10]忘れ物無しや徒歩通学など基本的な生活指導を行う, [11]挨拶や言葉遣いなど機会を逃さず指導する, [12]家庭と連携して児童を指導する, [20]児童の体力向上に努める, は向上している。特に[9][20]は肯定的が10割で, 一人ひとりの尊重や体力向上が, 今年度の特徴となっている。

② 研修に努め, 授業力向上に創意工夫・実践する教職員

- ・[13]よくわかる楽しい授業をめざし工夫改善に努める, [16]体験活動や講師招聘など, 学習活動を工夫する, は低下して。
- ・[14]ICTの充実は, 指導環境を向上させている, は全員が肯定している。
- ・[8]自分の目標を持って取り組む, は肯定的10割に向上している。

③ 豊かな人間性を備え, チームの一員として取り組む教職員

- ・[1]管理職はリーダーシップを発揮している, [2]運営に教職員の意思を反映する, [3]校務分掌(仕事の分担)は適性や能力に応じている, [4]互いに協力的に活動する, は減少している。
- ・[5]児童や保護者について日常的に報連相する, [15]危機管理意識をもって安心安全な教育活動を行う, [21]学校の施設設備の点検など安全管理に気をつける, [22]服務規律を守る, [23]迅速適切に危機対応するよう準備している, [26]相談し会える人間関係作り, は向上している。特に, [21][22][23]は, 全員が肯定的である。

④ 鋭い人権感覚をもち, 教育愛に燃え, 信頼, 尊敬される教職員

- ・[6]保護者との意思疎通の機会が十分にある, [17]生き方について考えることや豊かな心を育てる指導を行う, [18]年間計画に基づき人権学習や道徳教育を進める, [27]働き方を意識し, 時間的精神的にある程度ゆとりのある生活を送る, [28]年次休暇(有給休暇)や夏休などの休暇は取りやすい, は減少している。特に[6]は, コロナ禍を経て減少傾向が続いている。
- ・[7]様々な問題行動防止に組織として取り組む, [24]情報資産の保護・管理・廃棄を慎重に行う, [25]業務改善に取り組み, ライフワークバランスを考えながら職務に専念する, [29]勤務時間

終了後、1時間以内に校務を終え退庁する、は増加している。特に[24]情報リテラシーについては、全員が高い意識をもって取り扱っている。また、[25][29]については、タイムマネジメントの向上に努めていることが表れている。

(3) めざす学校像から <【資料3】保護者学校評価から>

① 楽しい学校 信頼と愛情、協力で結ばれ、仲間を大切にしている学校

- ・[11]児童は、忘れ物をしない準備ができている、[12]児童は、よく挨拶し、場に応じた言葉遣いをして、[14]学校は、児童の相談事や悩み事に適切に対応している、[15]学校は、人権を大切に、いじめや仲間外しのない集団づくりに努力している、[16]学校は、生命を大切に、心や社会のルールを守る態度を育てようとしている、は減少している。
- ・[11]忘れ物、[12]挨拶については、児童と保護者の認識に大きな差がある。
- ・[13]児童は、毎日、学校に行くのを楽しみにしている、は11%向上して93%が肯定的である。

② 伸びる学校 探求心に満ちた中で、教師が伸び、子どもが伸びる学校

- ・[5]学校の勉強はわかりやすく、学力がついている、は10%減少している。
- ・[7]児童は、学校や家庭で本を読んでいる、は現状維持である。今後も読書の推奨を啓発する。
- ・[6]児童が活躍したことがあった、[10]児童は、毎日、宿題や自主勉強などの家庭学習をしている、は微増である。
- [8]『児童は、外遊びなど体力づくりに取り組んでいる』は、昨年までの『子どもは、徒歩で通学している』の問を改定した。校区の広さによる遠距離に加え、少子化による一人徒歩での交通安全や不審者遭遇、サル等の獣害への不安から、通学については保護者（家庭）の意向に依るところも大きいと考えたからである。主体性育成、体力向上、キャリア形成からは、学校の近くまで送ったうえでの徒歩など、ハイブリッド徒歩通学を推奨したい。
- [9]『児童は、将来の夢や目標をもって生活している』を新設した。これは、教育のあり方が賞罰式、先生が怖いから、学校が厳しいからといった他律的なものから、一人ひとりのウェルビーイング（幸福追求）のための自律的なものに変容している今、学ぶ根源的なエネルギーは『夢・目標』にならざるを得ないと考えるからである。小学生段階として、漠然としてでもいい、自分が好きなこと、やってみたいこと、こんな人になりたいなどを、機会があればお子さんとの会話にちりばめてはいかがだろうか。

③ 美しい学校 緑と花を大切に、教育環境が整備されている学校

- ・[18]学校の施設設備等の環境は満足である、は減少し15%が否定的である。

④ 開かれた学校 地域に役立つとともに、地域の教育力を生かす学校

- ・[1]教育活動の様子やねらいが伝えられている、[2]事務連絡は適切にできている、[3]参観日やPTA行事は日時等参加しやすい、[4]参観日やPTA活動は有意義である、は肯定的な受け止めが向上している。しかし1割の否定的なとらえがあり、さらなる改善が必要である。
- ・[17]学校は、危機対応について児童への指導や保護者への連絡ができている、は96%が肯定的で向上している。今後も継続していく。

(4) その他 <保護者、教職員からの意見・提案>

- ・日頃からよくしていただきありがとうございます。子ども同士でのトラブルや体調不良など、何かあれば紙面だけでなく電話でも詳しくお伝えいただき、大変ありがたいです。子どもが学

校から帰ると、ランドセルを置くのも忘れて「今日が今までで一番楽しかった!」「笑いすぎて疲れる」とよく話しております。その話を聞くたびに学校の先生方やお友達、保護者の方々に感謝でいっぱいになります。親子共々ご迷惑をおかけすること多々あると思いますが、今後ともご指導よろしく願いいたします。

- ・子どもが笑顔で学校に行ける環境づくりをして欲しい。
- ・本人がしたい事が出来る環境や、運動面以外にも学習環境を整えて欲しい。
- ・防寒着を着る時は、制服の上に着るようになっていますが、先生によっては制服を中に来ていなくても見逃されていたり、来てこない子もいたり毎年、保護者の間でも話題に出ています。高学年になるにつれて制服のサイズもピッタリでなくなってくる子が多いと思います。それを来てからの防寒着の着用は窮屈で動きにくいと思いますし、安全面でもどうなのかな…と思います。制服を着ないと防寒着を着用できないと言う校則は変えていただきたいです。
- ・少しでもこのアンケートが役に立って欲しい。
- ・授業改善はみんなでやってみることが必要。
- ・「学校で決めたルールが守れないこと。」が、気になる。
- ・同僚からの助言を素直に受け止めていないと思う。
- ・授業実践の工夫があまりされていないと感じる。
- ・学校と家庭の信頼向上は、児童の成長、これに尽きる。

4 考察

<表の見方> 表中数字は、各評価での項目毎に、肯定的・否定的意見の割合について前年度割合と比べ、その増減の合計を集計したものである。例えば、次の表では、【資料2】児童評価から、めざす子ども像 ①よく考え、進んで行動する子 について、肯定的意見が+83、否定的意見が-24で、児童は向上していると評価している傾向にあることが読み取れる。

(1) めざす子ども像

◇【資料2】児童評価

| | めざす子ども像 | \割合計 | 肯定的 | 否定的 |
|---|----------------|------|-----|-----|
| ① | よく考え、進んで行動する子 | | 83 | -24 |
| ② | 元気でねばり強くがんばる子 | | 26 | -6 |
| ③ | みんなで仲よく助け合う子 | | 1 | -18 |
| ④ | 感謝を忘れず豊かな心をもつ子 | | 22 | ±0 |

◇【資料4】保護者自己評価

| | めざす子ども像 | \割合計 | 肯定的 | 否定的 |
|---|----------------|------|-----|-----|
| ① | よく考え、進んで行動する子 | | 18 | -10 |
| ② | 元気でねばり強くがんばる子 | | 10 | -18 |
| ③ | みんなで仲よく助け合う子 | | 24 | -3 |
| ④ | 感謝を忘れず豊かな心をもつ子 | | 12 | -2 |

児童が示す①での課題解決には、タブレットはあくまでも学習用具であって、その使用が学習の目的ではない。活用への創意工夫が求められている。また、学びの生活化は、授業のあり方として、社会に参加していく力の育成が重要となる。

児童は、③人間関係において満足できていなかったり、不安に感じたりしている割合が大きい。保護者の「いじめをしてはいけない」指導実施100%を背景に、日々の授業で、自分とは異なる多

様な人が集うことで共有できる楽しさ(充実感)の実感を通してよりよい人間関係作りに取り組む。

保護者は、②において、テレビやゲームの使用は子ども主体で、ルール作りやフィルタリング対策は低調な感がある。自動車や火器は安全に使える大変便利であるように、携帯 ICT 機器にも、児童育成に有効な使い方はあると考える。啓発等に取り組みたい。また、ノーゲームデーの実施については、児童とは大きく異なる結果である。家庭で、具体的にどうすることが「ノーゲームデーなのか」話し合うきっかけになればと期待する。

(2) めざす教職員像

◇【資料5】教職員評価

| | めざす教職員像 | \割合計 | 肯定的 | 否定的 |
|---|------------------------------|------|-----|-----|
| ① | いつも子どものために、子どものよさを伸ばせる教職員 | | 80 | -10 |
| ② | 研修に努め、授業力向上に創意工夫・実践する教職員 | | 10 | -18 |
| ③ | 豊かな人間性を備え、チームの一員として取り組む教職員 | | 49 | -46 |
| ④ | 鋭い人権感覚をもち、教育愛に燃え、信頼、尊敬される教職員 | | 41 | -39 |

授業が学校教育の一丁目一番地である。十分でないことがあれば改善していく姿こそが児童の学習意欲の向上、ひいては成長へとつながる。

授業を45分成立させる。1年生の4月から6年生の3月まで、約1200日くり返して、やっと児童は学習する基礎体力を身に付け中学生になる。45分集中できなくては、進学も就職も厳しい選択となる。黙っていられず不要にしゃべる、教師や級友の発言のあげ足を取ったり茶化したりして授業を混ぜる、落ち着かずに立ち歩く。それは児童が悪いのか。児童の前に立つ我々にすべきことがあるはずだと、今年『学習規律の確立』を目標に教育実践に取り組んできた。学習規律を身に付けた児童は、他人(ひと)と学習する力がある。言い換えれば他人と学び合う文化を身に付けているのである。ここから授業は始まるということ、これからも礎とする。

せっかくの少人数の学級を長所として授業に活用したい。一斉授業だけでなく、学習場面に応じてペアやグループの活動を取り入れ、児童が学び合う学習活動を創造していく。また、体験活動や講師招聘を効果的に取り入れる学習計画・運営力の向上を図る。

ICT 充実により、指導環境は向上している。次の一步はその活用である。互いにできることから、教育活動に DX を取り入れていく。前向きにチャレンジする。

管理職の組織運営については猛省するところである。校務分掌については各自意見はあって当然であるが、宣誓者としての矜持に応える学校経営に邁進する。ゆとりの生み方や休暇の取り方については、組織的なバランスをとりながら時間だけの改革に陥らないように改善を進める。

危機管理では、人的に物質的に児童を守り、危機発生時に対応する教職員組織としての誇りを今後も務めぶりとして表していく。

保護者との意思疎通の改善に関して、対人での意見交換や情報共有の機会作りに取り組む。何よりも、授業参観や PTA 活動などが保護者と教職員に意思疎通が生じる機会となるよう改善する。

(3) めざす学校像

◇【資料3】保護者学校評価

| | めざす学校像 | \割合計 | 肯定的 | 否定的 |
|---|---------------------------------|------|-----|-----|
| ① | 楽しい学校 信頼と愛情、協力で結ばれ、仲間を大切にする学校 | | 5 | -62 |
| ② | 伸びる学校 探求心に満ちた中で、教師が伸び、子どもが伸びる学校 | | 6 | -10 |
| ③ | 美しい学校 緑と花を大切に、教育環境が整備されている学校 | | 0 | -5 |
| ④ | 開かれた学校 地域に役立つとともに、地域の教育力を生かす学校 | | 25 | ±0 |

①において、児童への寄り添い、人権尊重・いじめのない集団づくり、生命尊重・ルールへの遵守への否定的割合が多い。何よりも児童の事実（姿）から目を背けず、つぶやきに耳を傾け、内言語をも読み取る感性も磨いていかねばならない。

忘れ物や挨拶については、児童と保護者の認識の差が大きい。児童はできていると思っていることも、保護者の援助があっでできているのであろう。「自分でする子」の育成を継続していく。逆に、学校に行くのを楽しみにしているとのとらえが児童を上回っているのは、保護者の楽しい学校であって欲しいとの期待だと受け止める。

②では、わかりやすい授業、学力の獲得をめざし、授業改善に一層取り組む。家庭学習・読書共に、その意義について啓発を継続する。

③では、学校の小規模化に伴い、夏の PTA 奉仕作業がそうであるように、環境維持に限界が生じている。児童の安全・安心の確保、教育活動への必要性等から優先順位をつけ、教育委員会とも連絡を取りながら継続的な維持、改修に努めていく。

5 おわりに

教育効果のある学校を作っていくには、何ができて何が不十分なのか、現状分析と具体的な評価の積み重ねが重要だと考える。一層の研究を進めたい。

めざす学校像への評価では、保護者は、一層児童に寄り添い、児童の内面に届く教育実践を求めていることが示された。コロナ禍3年間で、人と人のつながり方に空白が生じていると言われるが、学校教育にも影響は強く残っていると言わざるを得ない。保護者の思いを受け止め教育実践に臨まねばならない。ザ・FUKUI サーキットは、体を動かすことから児童相互の関わり合いのきっかけになればと期待して取り組んでいる。同時に、児童の体力低下に対する小さな対策でもある。さらに、学校生活において、人間関係に不安や不満を感じる児童がいる。生徒指導面からも、日々の児童の姿に注視し、日頃の予防的な指導、問題発生時の対応、さらには事後指導に取り組まねばならない。

教職員は、目標をもち、児童ファーストで勤務している。保護者との意思疎通が年々図れなくなりつつあることに、保護者の不安同様、危機感を募らせている。手を打つのは、今！である。

学校関係者からは、児童一人ひとりの姿により一層の成長が表れるよう期待されている（【資料6】）。若竹教育推進委員会では、次のような意見をいただいた。

- ・地域交流の活動（集団下校訓練，サマースクール，門松づくり等）で接する本校児童からは、めざす児童像を体現した，明るく元気な，はきはき挨拶する児童が育っているように感じる。
- ・めざす学校像にある美しい学校は，いつ学校へ行っても季節の花で迎ええられるフラワーロード（校門から校舎への通路）に表れている。日々の尽力に敬意を表します。
- ・これまで懸案となっている校訓碑の撤去は，夏の地域のみなさまの意思表示を元に，記念碑よりも安全第一，さらに進めていただきたい。
- ・地域と連携した防災学習では，昭和南海地震での津波被害の語り部がいなくなったことを受け内容等の再構築をお願いしたい。

今後も目標や手立てを，さらには成長の事実を共有することで，児童育成への学校・家庭・地域の連携を進めていきたい。そこでは，何よりもまず児童の力を伸ばすことに全力を尽くすことが保護者の学校理解を深め，信頼感を高めていくと考える。

今回の学校評価を通して明らかになった本校教育改善へのキープポイントは次のとおりである。

- ・児童の成長する姿（変容）を届けることを通して，信頼関係を構築していく。
- ・児童の変容を，自他を認め合う授業における学習活動で引き出す。
- ・授業改善に一層取り組み，授業45分の中身を高めていく。

『授業が命』とする本校教育に，ご理解ご協力をよろしく願いいたします。